

## 廿日市高齢者ケアセンター サービス向上検討委員会(運営推進会議) 議事録

日時:2018年3月14日(水) 10時00分～12時12分

会場:廿日市高齢者ケアセンター 1階 会議室

### I ご挨拶:

(委員長)

- 廿日市市高齢介護課、地域包括支援センターはつかいちの委員の欠席の説明。
- 設置規程から2年間の任期で、初めから参加の方は今回が最後、途中から参加の方は任期満了までの説明。

### II 委員自己紹介 出席者(予定)(順不同・敬称略):

【外部委員】 瀬戸千枝子(民生委員), 堀川文枝(元在宅サービスご利用者家族), 山先方江(元施設サービスご利用者家族), 織田智子(認知症専用デイご利用者家族), 廿日市市社会福祉協議会(中村),

【内部委員】 小野施設長, 堀越(施設福祉サービス部), 田中(デイサービス課), 谷栖(特別養護老人ホーム課), 酒井(ケアハウス係), 瀬戸口(居宅・訪問サービス課), 武田(総務福祉課)

欠席者【外部委員】 廿日市市高齢介護課, 地域包括支援センターはつかいち,

### III サービス向上委員会(運営推進会議)開催要領及び前回議事録の確認

- なし。

### IV 議題

#### 1. 半期(2017年9月～2018年2月)の活動状況及び、近況報告(前回会議以降)

- ・ 別紙1, 2について、内部委員より事業所概要(職員数・定員・サービス内容など)も含めて説明

特別養護老人ホーム阿品清鈴

短期入所生活介護事業所第2清鈴園(ショートステイ)

(谷栖委員より説明)

- 別紙1.2で稼働率等を説明

#### ①特養

- ・ 感染症は蔓延しなかったが、体調不良による入院は年末年始から現在まで多かった
- ・ 急に体調が変化し、亡くなられた方があった(2名)
- ・ 設備や介護機器の老朽化への対応として、入浴機械を新しい物へ更新した(2月)
- ・ 稼働率の説明
- ・ 入所待ちの方の施設で感染症が蔓延していたため、入所が遅れた
- ・ 重度の方の入所が増えているので在所日数が短くなってる(1月後半に入所された方が2月中旬に亡くなられたことの説明)

(堀越委員より説明)

- ・ デイサービス、ショート利用から入所された方が逝去され、ご家族から葬儀の際に施設職員の対応をほめていただき、職員全体会議で職員へ報告したことを説明

②ショート

- ・ 稼働率低下の説明(他施設への入所、体調不良等によるキャンセルが多かった)
- ・ インフルエンザ等感染症の流行時期に合わせて11月から2階職員、家族等へのマスク着用の徹底を行っている
- ・ ご利用者の重度化、体力が落ちてからの入所に対して、体調の変化を早期発見するように努める
- ・ 新規利用者への対応は月平均3名
- ・ 新規利用者については半数以上が定期的な利用に結びついている
- ・ キャンセルが出たベッドや特養の空床、入院の方のベッドを利用して緊急の対応を行っている
- ・ ケアマネージャーからの情報を整理して新規利用の協力を仰いでいる

以上、施設部門(特養、ショート)の説明について委員からの質問や意見など

(堀川委員)

- ・ 今の状態だったら要介護5ぐらいなら入れるか？

(谷栖委員)

- ・ 必ず要介護5だったら先に入れるというのではない
- ・ 要介護3以上でも介護状況、介護力、経済力も含め総合的な判断によって決まる

(堀川委員)

- ・ 施設へ情報が全部いくのか？

(委員長)

- ・ 調査票の様式があり、記載してある内容が点数化されて合計点数が高い方から決まる

(堀川委員)

- ・ 申し込んだ時に書いてあるのか？

(委員長)

- ・ 最近ケアマネージャーが書いてご家族から申請してもらう
- ・ 内部委員だけで行うと公平性が欠けてはいけけないので、外部の方(第三者委員)に入所を決める委員会に入っていていただき順位を決める

## ケアハウスささえ

(酒井委員より説明)

1人部屋 12 部屋、2人部屋9部屋で3階フロアー

### ● 別紙1.2で稼働率等を説明

- ・ 2人部屋が1室空き状況
- ・ 1人部屋は満室
- ・ 現在入居の方は安定して生活されている状況
- ・ 課題は空き室がうまらないこと(特に二人部屋の稼働が難しい)

- ・ ケアハウスの広報誌、パンフレットも新しくして、広報活動も行っているが入居に結びつかない状況
- ・ 入居したい方は介護度が高い等で生活されるのが厳しいと考えられ、入居に結びつかずもどかしい気持ちがある
- ・ ホームページの更新、見学会の開催、お泊りの体験等、企画も検討中

以上、施設部門の説明について委員からの質問や意見など

(堀川委員)

- ・ ケアハウスはどの程度の方が入られているのか？

(酒井委員)

- ・ 入居条件は60歳以上、多少不自由があっても自分で生活ができる方という規定がある

(堀川委員)

- ・ 60歳を超えていれば、介護度を持っていなくても入れるのか？

(酒井委員)

- ・ 入れます。介護保険で動いている施設ではない、また軽費老人ホームを国が年金生活に入る年齢が基準で条件を決めたのだと思われる

(堀川委員)

- ・ 費用的に安いといわれているが大変だと思うので、二人部屋も埋まらないのではないのか？

(酒井委員)

- ・ 有料老人ホームの二人部屋の金額に比べると安い。収入によって事務費の差がある。

(堀川委員)

- ・ 国民年金では厳しい？家とかも売却してからでないでないと維持していくのは難しいと聞いている

(酒井委員)

- ・ 二人部屋の場合、お二人の収入(年金等)を合算してその1/2の金額で事務費を決定する

(委員長)

- ・ いつまでここで暮らせるのかというのは施設毎に違う
- ・ ケアハウスの目的は、生活を支援するところ
- ・ 介護が必要な場合は介護サービスを介護保険で利用しないといけない
- ・ 医療行為が日常的に必要、夜間の介護サービスを外部から受けられない等が起こると入居し続けるのは難しい
- ・ 他の施設では要介護になった時点で認定の状況によって断る場合もある

(堀川委員)

- ・ 要介護が低い方がよいということですね

(酒井委員)

- ・ ボランティア講師の方が毎月一度こられ、型染めの教室をケアハウスで行っている。その型染めの作品を使用して文化祭でファッションショーを開催した。
- ・ 県の理美容学校の先生方に来ていただいてボランティアでお化粧をしていただき、文化

祭に来てくださったお客さんの前を歩いて作品を披露した

- ・ ピアノやサクソ奏者の方々のコンサートも同時に開催しコラボレーションした
- ・ はつかいちふれあい文化祭の作品も素晴らしく、披露する場として色々な作品を手作りされ、それを即売し収益を寄付していただいた
- ・ とても活動的で自分たちも元気になろうといった感じでされて、外にもボランティアにいらしたらよいと思っている

(委員長)

- ・ 入居者の方と職員で懇談会を年4回行っている
- ・ バザーの話があり、売上げを出すためにやっているのではなく、自立支援的な内容の話を入居者の方から発信していただき、私たちが勉強させていただいている。

(堀川委員)

- ・ リーダー的な方がいてしっかりやられていると思った

(酒井委員)

- ・ 12月に二人部屋に入られたご夫婦が、不安をもっていた時期にバザーの時期にいろいろな活動を見られ、希望の光がさした、まだまだやれるんだと思いきごく楽しいとおっしゃられた。
- ・ 自分達が出来ること、やれることを楽しもうとする雰囲気があって、私達も皆さんと一緒に勉強させていただきがんばらないといけないと思う。

(堀川委員)

- ・ 立場的にサービス付高齢者住宅と同じになるのか？経費的な部分でこちらに入れたらよいと思う

(委員長)

- ・ 新しく入られた方はサービス付高齢者住宅からで要介護4だったが、こられてからの状態は要介護4ではなかった。ケアハウスの環境は支え合いの環境があってよいと言われた

(堀川委員)

- ・ なぜここが空いているのにサービス付高齢者住宅に入られるのかと思う

(酒井委員)

- ・ 問い合わせをいただいていたが、当時は空いていなかった

(堀川委員)

- ・ なかなかケアハウスの位置づけがわかりにくい

(中村委員)

- ・ ケアハウスにボランティアで来られている型染めの講師の先生がケアハウス入居者の皆さんのファッションショーをやりたいと社協に相談に来られた。清鈴園のご利用者も一緒に同じサークルの発表と聞いていたが、その時は先生が主体なのかご利用者(入居者)が主体なのかわからず返事があいまいになった。ご利用者(入居者)が主体なら11月にあいプラザ祭りを行っているので施設として相談にのってあげてほしい

(委員長)

- ・ うちのグループだけではなく、先生が活動されている方を対象に廿日市の福祉祭りとし

てあいプラザ祭り等で行っていくとどうか？

- ・ 社協が主催で作り、そこに参加する方が自然だと思う
- ・ 当面内部では、文化祭で披露の場はできている

(中村委員)

- ・ 先生ではなく当事者が主役になってもらうのがよいと思う

(2)在宅サービス部

(田中委員より説明)

- 別紙1.2で稼働率等を説明

**デイサービスセンター第2清鈴園(一般型)**

定員が30名

- ・ 9月から下降気味で平均20名程度
- ・ 2018年に入ってから体調不良、骨折で入院が増えてきた
- ・ 一日8名が休みのこともあった
- ・ 各居宅介護支援事業所へ連絡し新規利用者の受入を積極的に行っている
- ・ ご利用者の状態に合わせて体力の低下、入院にならないよう機能訓練等を意識した工夫を検討 している

**デイサービスセンター第2清鈴園地御前北2丁目集会所(お〜い予防教室)**

出張型のデイサービスで月曜日に午前の部と午後の部に分かれて認知症予防教室の形で行っている

- ・ 介護保険内が6名、介護保険外が5名の定員
- ・ 午前の部は介護保険内、外とも満員となった
- ・ 午後の部は介護保険内に若干の空きがある
- ・ 介護予防を目指してやっていて、主に認知症の予防を行っている
- ・ 齊藤脳外科(齊藤医師)からの紹介をいただいている
- ・ 今後も協力をいただき、連携につとめていくように考えている

**デイサービスセンター第2清鈴園本町集会所(本町デイ)**

出張型のデイサービスで水曜日に実施。対象は軽度認知症の方

- ・ 2018年に入ってから長期欠席者が2名
- ・ 3月から新規のご利用がある
- ・ 一般型からの問い合わせもある
- ・ 夏頃に比べて平均2名程度減っている
- ・ 引き続き一般型よりスムーズな移行をすることで稼働率が維持できるようにしていく

**デイサービスセンター第2清鈴園廿日市一丁目集会所(廿日市デイ)**

昨年8月まで75歳未満の方を対象としたサテライトデイサービスを行っていたが、ご利用者が減り、役割として終了したと判断し、地御前北2丁目集会所(お〜い予防教室)と同じような認知症予防教室に10月から変更し、午前に開催中

- ・ 現状は保険外のご利用者3名
- ・ 保険内、外とも5名ずつの定員

- ・ 廿日市集会所の建物の大きさを考慮して定員が決まっている
- ・ サロンや講演会を通じてPRを行っているが、問い合わせに繋がっていない
- ・ 出張コグニサイズ等でもPRを行う

#### 認知症専用デイサービスセンター第2清鈴園(ここの音)

##### 認知症の方専用の少人数のデイサービス

- ・ 夏はご利用者が多くなったが、冬にかけて減ってきている
- ・ 加齢、認知症の進行により、身体介護の必要な方が増えてきている
- ・ そのことによって個別性の高い認知症ケアが難しくなっている
- ・ 身体介護が必要になった方に対して一般型と連携し一般型への移行等、状態、ニーズに応じたサービス提供となる様検討していく

##### (委員長)

- ・ ①と⑤がケアセンターで行っているデイサービス
- ・ ②③④が地域の集会所を借りて週一回行っているデイサービス
- ・ 廿日市一丁目集会所デイサービスは、2004年9月に当時介護保険が始まって約4年経過後、介護保険では40歳以上の方も対象となる場合があり、若い方を対象としニーズに合った場所を作った。多くの人数はいないので週一回出張型で、13年つづけたが、近隣にも若い方を対象としたサービスが増え、廿日市集会所の人数も登録者が減ってきたので、2017年8月でその方を終了した。現在は認知症予防に力を入れてきているので、10月から内容を変更した。

以上、在宅部門の説明について委員からの質問や意見など

##### (織田委員)

- ・ 主人はショートステイ中心の利用になったので回数を減らした

##### (委員長)

- ・ いろいろな介護環境の方がいらっしゃるの、通所が難しくなったらショートステイを増やす方は多い、無理して在宅介護を続けると介護者がもたなくなる

##### (田中委員)

- ・ 一般型は新規利用者が3名こられたり、体験の方が利用を始められた
- ・ 認知症専用デイも身体介護が増えているので、ベッド数を増やし個別の時間を過ごしやすくなる様に環境を工夫していく

##### (委員長)

- ・ 一般型のご利用者で、他の施設を体験したが利用に繋がらなかった方が、こちらの体験後に利用に繋がった。知り合いがいて声をかけてくれるのが心地よいとのことで、ご利用者や環境がそういった気持ちにしてくださったと思う
- ・ 認知症予防を目的としている「お〜い予防教室」では4ヶ月に一回、認知機能の評価をしている。相談プログラムを使用して、評価結果はかかりつけの医師に報告している
- ・ 地御前デイは2015年から始めて2年半ぐらいになる。認知機能が維持されている方が多いので役割として果たせていると考えられる
- ・ 廿日市デイは新たな形を始めて間がないのでご利用者の人数が少ない。広電廿日市駅から徒歩約一分で行けるところにある

(堀川委員)

- ・ 地御前北集会所は広電地御前駅から歩いていけるのか？

(委員長)

- ・ 歩いては少し距離がある

(堀川委員)

- ・ 本町デイはどこにあるのか？

(委員長)

- ・ 廿日市警察署と廿日市小学校がある海側方面

(堀川委員)

- ・ いろいろなところにお年寄りが行ける場所が増えている

(委員長)

- ・ 認知症予防の方法で「コグニサイズ」が効果的と言われる。そのコグニサイズの方法を出張してお伝えしていて(出前コグニサイズ)依頼が増えている
- ・ 地御前市民センターで自治会がされるサロンでシリーズとして行うことが決まっている
- ・ 阿品台、大野からの問い合わせもある
- ・ 私たちが実践していることを地域の方に伝えていくことも進めていきたい
- ・ 資料代程度(印刷した資料代)はいただいている

(瀬戸口委員より説明)

訪問介護事業所第2清鈴園(ホームヘルパー)

- 別紙1.2で稼働率等を説明
  - ・ 12月ぐらいからご利用者が減ってきている
  - ・ 身体介護は、主に入浴介助、デイサービス、ショートステイ等の送り出し、帰ってきた時の迎え入れ等のことを行っている
  - ・ 生活援助は、掃除、調理、買い物の援助等を行っている
  - ・ 訪問Aは、予防、支援の方で生活援助が必要な方を廿日市市の一定研修修了者(生活支援員)が担っている
  - ・ 支援員の登録が少なく、養成が課題で、廿日市市の一定研修修了者に繋げていく必要がある

居宅介護支援事業所第2清鈴園(ケアマネジャー)

- 別紙1.2で稼働率等を説明
  - ・ 12月ぐらいから骨折、肺炎、体調不良が多かった
  - ・ 1月末(185件)の内訳として、要支援が57件、要介護が128件
  - ・ 要介護の方は毎月ご自宅へ訪問している
  - ・ 要支援の方は概ね3ヶ月に一回ご自宅への訪問が義務づけられていて、必要があれば随時訪問をしている
  - ・ ご家族の介護力、ご自身の状態の悪化等で早急に入所、入院に結びつくケースが増えてきている
  - ・ 4月から制度改正があるので、事業所内で研修、ミーティングを実施している

以上、在宅部門の説明について委員からの質問や意見など  
(委員長)

- ・ 居宅介護というのは、障害者総合支援法に位置付けられたヘルパーで、現在は一件のみ。基本的に高齢者を中心に行っていく方向なので、新規のケースを受けておらず、ケースが減少している

\* 総合事業について

介護状態等区分	対象となる事業及び給付
非該当	・一般介護予防事業
事業対象者	・介護予防・生活支援サービス事業 (訪問型サービス、通所型サービスなど)
要支援1	・介護予防・生活支援サービス事業 (訪問型サービス、通所型サービスなど) ・予防給付(訪問看護・福祉用具貸与など)
要支援2	
要介護1	・介護給付
要介護2	
要介護3	
要介護4	
要介護5	

(瀬戸委員)

- ・ 認定がなくても受けられるのか？

(委員長)

- ・ 受けられる

(堀川委員)

- ・ 認定が無い人はお金がいる場合、いくらぐらいなのか？
- ・ 週に何回受けられるのか？

(委員長)

- ・ 基本は1割負担で原則他の方と同じ
- ・ 週一回が原則。要支援1相当になる

(堀川委員)

- ・ デイサービスに行っても生活支援(ヘルパー)は受けられるのか？

(瀬戸口委員)

- ・ 週1回程度利用できる

(堀川委員)

- ・ デイサービスとデイケアの違いがわからない

(瀬戸口委員)

- ・ デイケアはリハビリが目的で医療系になる

(堀川委員)

- ・ 第2清鈴園にはないのか？

(委員長・瀬戸口委員)



- ・ ありません
- ・ 阿品、阿品台ではシェスタのみ、アマノの病院でも行っている

(堀川委員)

- ・ 四季が丘にあるのはデイ？

(委員長)

- ・ デイサービスです
- ・ デイサービスとデイケアの違いは、医学的管理の元で行っているのがデイケア
- ・ ケアセンターの場合は作業療法士が主治医に注意事項を確認し、確認したものを基に機能訓練を行っている

(堀川委員)

- ・ ここでマシンを使用した運動を取り入れたらよいのではないかと？男の人は魅力を感じるのではないかと？座っての作業というのは中々男の人はプライドがあり行わない

(委員長)

- ・ マシンを使用した内容は時代的に必要なのかと思う
- ・ 2006年に介護予防制度が始まった時にいろいろ考えた時に、機械を使用すると利用時にはできるが、自宅でできない
- ・ 自宅に帰ってもできる内容が良いと考え、自分の体重を使った運動を覚えて帰ってもらうプログラムを導入している(元気になる体操)
- ・ 内容的に最近の世代の方にはインパクトが弱いので、運動機器があった方がよいという話もでている

(堀川委員)

- ・ 私のところにも両方来ている男性の方がいて、機械がある方には行きたがるが、ない方は嫌がる
- ・ 機械を使った方がやった感じになるのではないかとと思う
- ・ 男の人を呼ぼうと思ったら機械を使用する方がよいと思う

(瀬戸委員)

- ・ 私の知っている方は、しゃべらなくていいから機械を使用する方がいいと言っている。黙って自分の順番で行っていく方がやりやすい
- ・ 若い方で、くも膜下出血で少し言語が難しく、自分でも上手くしゃべれないのに、人に話しかけられても対応が難しい

(堀川委員)

- ・ 心理的な状況を把握するのも大切
- ・ 私もサロンを行っていて、利用者は女性だけで行っている
- ・ 男性が入ると何か違って来るので嫌という意見もある

(中村委員)

- ・ 老人クラブは多くあり、行き場所が違っていいと思う
- ・ 阿品台夢あじなはコミュニティーが主体で、世話人に男性が多い

(堀川委員)

- ・ 私の方は女性だけになってしまい、男性が入られたら企画を考え直さないといけない

(中村委員)

- ・ 男性は一人に来て、一人で帰れるのが楽だと思われる
- ・ 基本は喫茶スペースになっているので一人でもいられて、話すスタッフもいて話もできるので、男性は使いやすいと思われる
- ・ 性質が違うので、無理して一緒にやってもよいのではないかと思う

(堀川委員)

- ・ そういった雰囲気を使うのは、男性はいいのではないかと思う

(3)福祉総務部

(武田委員より説明)

#### 廿日市市配食サービス

- 別紙1.2で稼働率等を説明
  - ・ 月、火、水、金、土の5日間でボランティアの方にも協力していただき配っている
  - ・ 一日の配食数は平均22～25食
  - ・ 食数のうち200食ぐらいをボランティアの方が配っている
  - ・ ボランティアの高齢化と減少が課題で、社協、包括等と現状把握を行っている
  - ・ 配食時の入れ物について使用中の袋から底が安定した容器への変更も検討している

#### 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業

- 別紙1.2で稼働率等を説明
  - ・ 廿日市市から委託をうけて市民の会が行っている
  - ・ 廿日市市の事業として、本人と家族のために研修を受けた方が訪問を行っている
  - ・ ケアマネやご家族から、複数の訪問依頼をいただき、ご本人への説明、市への申請書提出、支援員の調整等、スムーズに訪問活動が出来るように対応している

#### 出張介護教室・出前コグニサイズ

- 別紙1.2で稼働率等を説明

出張介護教室

- ・ 12月に串戸コミュニティーで行った
- ・ 阿品、阿品台地区のサロンへ参加させていただく
- ・ ニーズに応じた内容の立案、提案を行っていく
- ・ フジグランより開催依頼があり、3月から定期的な開催を予定

出前コグニサイズ

- ・ 9月にサントピア大竹で行い、60名の方が参加された
- ・ 4月に立ち上げる地御前市民センターへの依頼を行い、定期的開催予定

(委員長)

廿日市市配食サービス

- ・ 日曜日と木曜日以外が配食を配る日となっている
- ・ 利用できるのは市の取り決めで最大週3日までとなっている

(瀬戸委員)

- ・ 市からの補助はいくらぐらい出るのか？

(委員長)

- ・ 課税世帯と非課税世帯では基本単価が違い、非課税世帯の副食のみは約300円、課税世帯の副食のみは約400円
- ・ スーパーの弁当でも500円で買える物も多くある

(瀬戸委員)

- ・ 認定を受けないと駄目なのか？
- ・ 面倒だから他へ頼んでしまう
- ・ 毎日使いたいと思う人は多いと思う

(委員長)

- ・ 認定は関係ないが、市の方で対象となるかの審査がある
- ・ 目的が食事だけではなく、見守りも重要な役割としてある
- ・ 原則として、ヘルパー利用日はとれない、デイサービスを利用した日はとれない、同居世代はとれない等の制約がある
- ・ 週3日は利用者に繋がりにくい状況になっている

(中村委員)

- ・ 配食弁当の方が温かみを感じる
- ・ 最近は業者も多様で値段が高い安い、一週間単位で頼まないといけない、一日一食単位の頼める等様々な違いがある

(堀川委員)

- ・ 一週間単位では頼めないのか？
- ・ 夜だけの弁当となれば、朝、昼はどうするのかといった問題が考えられる

(中村委員)

- ・ 配食がある日以外で、会社に頼むこともできる
- ・ 会社による弁当は、何食でもできると思われる

(堀川委員)

- ・ 奥さんがいる場合はダメということになるのか？

(委員長)

- ・ 配食を使われる場合は併用される方が多い
- ・ 配食数が9月は541食から2月が450食になっていて、多い時には月800食といった時もあったが、600食を目安で市の方と協議している
- ・ ボランティアの方からの意見としても、なぜ高齢者が増えているのに利用者が減っているのかとの質問もある
- ・ 配る数が減るとボランティアの活動する機会が減ってしまうので、食数が少ないとボランティアの方から必要の是非を確認されることもある
- ・ ある程度の食数がないと、地域の見守り活動としてのボランティア活動が発揮できない
- ・ ボランティアグループは、小学校区では現在は4学区(阿品、宮内、佐方、地御前)で活動されている。今年二十数年活動されていた、廿日市地区のボランティアグループがやめられた。一番多い時には全小学校区にあった

(瀬戸委員)

- ・ ボランティアは活動時間の制約があるので大変だと思う。何時までに配らないといけない、出かけていたら帰らなくてはいけない、車が必要等を考えないといけない

(委員長)

- ・ 平地なら自転車で配るボランティアの方もいる
- ・ ボランティア活動をお願いする時に、毎日ではなく、決まった週だけ、月のうち一週だけでもといった形をお願いをさせてもらっている

(堀川委員)

- ・ 見守りだったら自分の予定が合うところで行こうと自分で決められるが、配食は自分の好きな時間にいけないので大変だと思う

(委員長)

- ・ 民生委員の方が、何もなく伺うと受け入れてもらいにくいのが、弁当を持ってきたといったことなら話のキッカケになるという方もいる

(瀬戸委員)

- ・ 私も初めて民生委員をしています、初めは受け入れられにくいのが、2、3回いくとねぎらいの言葉をもらえる
- ・ 誰も配る人がいなくなったらどうするのか？

(委員長)

- ・ 小学校区以外は職員が配っている
- ・ 配食ボランティアが始まった経緯からすると、地域の中で見守りができるということなので、直配はあまりしたくない

(中村委員)

- ・ これは強制でやっていない
- ・ 弁当を持っていくことによってそれぞれの家の状態がわかってくる
- ・ 民生委員の方以外が行っていることが財産

(委員長)

- ・ 定期的に同じ方が行かれていることで情報が入ってくることに意味がある
- ・ できればいろいろな地域に行っていただきたいが、負担感もあり、食数が減っている問題がある

(堀川委員)

- ・ 一人が何食配るのか？

(委員長)

- ・ 地区によって数が違う。宮内地区は2食、どの地区も多くても5～6件
- ・ 時間の拘束が大変だということで、出かけていても3時には帰ってこなくてはいけない

(委員長)

認知症高齢者家族やすらぎ支援事業

- ・ 認知症の勉強をした方が認知症の方のお住まいを訪問する市の事業
- ・ 入院等で中止が相次ぎ、数が減った

(委員長)

出張介護教室・出前コグニサイズ

- ・ 上半期は多く実施した
- ・ 15日からフジグランでコグニサイズが始まる

## その他

(委員長)

人材育成

- ・ 清鈴園とケアセンターが合同で階層別研修を行っている
- ・ 新人、中堅4年まで、中堅5年以上、指導者(リーダー、係長)、管理者の5層に分けて行っている

やすらぎ支援員基礎研修

- ・ やすらぎの訪問に関わる方を新規で養成する研修を年2回行っている
- ・ 今年度の研修で9名の方が修了
- ・ 初めてゆめタウンの2階市民ホールで行った

廿日市市介護予防・生活支援員養成研修

- ・ 廿日市市からの委託を受けて行っている

廿日市市介護のお仕事きっかけ講座

- ・ 資格を持っているが介護の仕事についていない方のキッカケを作りたいとの考えで始まった研修
- ・ 初めて2回行い、各1名ずつ受講があった

ハーモニーOBG

- ・ 主に大野地区で暮らしている知的障害の方で構成しているグループを卒業した方のグループ
- ・ こちらで、お仕事体験、調理ボランティアグループとして活動されている

カフェなかま

- ・ こちらの施設の喫茶室で毎週木曜日に行っている
- ・ 廿日市市在住で障害をもつ子供をかかえる親御さん達が職員向けの食事を作っていた
- ・ 一般の方も対象で、食事代500円で行っている

## Ⅱ ボランティア活動状況

(委員長)

### 1. ケアセンター

- ・ 定期の方の活動状況と不定期の方の延べ人数

### 2. さろん阿品

- ・ やすらぎ支援の研修を受けた方がボランティアで行っている
- ・ 毎週火曜日にケアセンター4階で、一回に集まる人数は高齢者の方7名、ボランティアの方5名程度で行っている

### 3. 配食サービス

- ・ 先程の説明の通り

## Ⅲ 期間中の主な出来事

(委員長)

- ・ 介護健康フォーラムをフジグラン主催で介護、健康に関わるイベントを実施
- ・ 介護レストランを今年初めてゆめタウン廿日市で実施
- ・ はつかいちふれあい文化祭を実施。阿品台中学校吹奏楽部、阿品台西小学校よさこいサークル等の参加もいただいた
- ・ 毎月一回介護相談員の方が施設にいられて、ご利用者の思いを聞きとり事業所に伝えてくださる。そのことを事業所のサービスに反映していくように努めている

サービス向上受付票の受付実績

- ・ 苦情処理の内容で、今回は3件の受付
- ・ デイサービスご利用者家族から、お風呂に入れなかった時の連絡の仕方について
- ・ 配食について、間違っって他の人の弁当を届けてしまったが、二人とも減塩食だったので体調に支障はなかった
- ・ 配食のボランティアの方が忘れていて、ご利用者から何回も電話をいただいたことについての対応

(中村委員)

- ・ ボランティアというのは社会参加の活躍の場を作っているのは大切なこと。人の役に立てる場を作っていることは評価が高いことで、社会貢献をよくやられているので、もっと職員の評価になってもよいと考える
- ・ ボランティアの受入も社会福祉法人の役割を果たしている

(山先委員)

- ・ 私は知的障害の学校に長年勤めていたのでこのような配慮があるのはすごうれしい
- ・ 数字だけでは見えないことで、障害を持った方、お年寄りにも相乗効果で良い人間関係を築くという意味で地域社会に生きていく希望に感じうれしい

(中村委員)

- ・ 行き場とか発揮できる場を探した結果、ケアセンターにたどり着き実現したことを思うと、大事なことだと思う

(山先委員)

- ・ 時間に追われ作業的な量が増える中で、待っているという姿勢を作っていることがうれしく、感謝している

(中村委員)

- ・ 親御さん、メンバーの方も次につながってくると思うし、職員も気づきと学びのチャンスになると思う
- ・ 介護職の人材確保の視点でも、小中高生に介護の仕事の魅力を知ってもらうことが大切
- ・ 親御さんへのアプローチも大切

(委員長)

- ・ 来年度の小中学校区の指導要綱の中に、高齢者の理解が義務付けられるらしいので、上手く社協の福祉教育を混ぜながら必要に応じて呼んでいただきたい
- ・ 高齢者というところを大切に、実際に関わっている人たちの声を聞くことが必要だと思う

う

(中村委員)

- ・ やってみたい、行ってみたいと思わせるような働きかけ、声かけを親にしていきたい

(山先委員)

- ・ 給料面も大切で、親も就職させるのに抵抗をもってしまう

(委員長)

- ・ 最近はかなり改善してきている
- ・ 事業所によってだいぶ違う
- ・ 福祉業界で問題になっているのが、介護職の処遇だけに厚みをつけ、ケアマネ、相談員、看護師は国からの恩恵がなく、また、看護師の基本給も事業所によって違う

(山先委員)

- ・ 人の気持ちをくみ取って働くことはとても大変な仕事だと思う

(瀬戸委員)

- ・ 中学生が来たときの職員が生き生きしているのを見てプロ意識をもってやっているのがわかる

(委員長)

- ・ 廿日市中学校の生徒の感想で印象に残っているのが、大きくなったらここで働きたいのではなく、年をとったらここを利用したいと言われて、すごいほめ言葉だと思った

## 2. 各委員から

(1)活動状況に対する運営推進会議からの評価

(2)当センターの活動に対する要望・助言

(1)(2)合わせた評価等をそれぞれの委員に発言をいただいた

(織田委員)

- ・ 主人がお世話になっているので出来ることをしようと2年間たち、何も知らなかったがすごく勉強になった
- ・ 介護の幅広さ、奥深さ、自分が知らないこと、お世話になっていることを実感できた

(堀川委員)

- ・ ここで母が利用した時の感謝の気持ちをと思い2年間参加させてもらった
- ・ 母を看取った時の気持ちが今でも印象に残っていて、家族にとってすごくうれしかった

(山先委員)

- ・ どのようなことで役にたてるかわからなかったが、勉強させてもらった
- ・ 母がお世話になった時、職員の対応がすごくよかった

(瀬戸委員)

- ・ 一年がたってようやく事業の仕組みがわかって理解できた
- ・ 介護保険が高いと思うが、こういった事業があるのなら仕方ないと思った

(中村委員)

- ・ いろいろ話が聞けて、また、たくさん話させてもらったのでよかった

(武田委員)

- ・ いろいろ話を聞かせてもらい、このままではいけないとの気づきがあった

- ・ お褒めの言葉をいただき、これからの励みになった

(酒井委員)

- ・ いろいろな意見が私たちのパワーになる
- ・ 聞かせてもらえたことで励みになりがんばっていける

(瀬戸口委員)

- ・ いつも褒めていただくことが聞けるのでうれしく参加させてもらっている
- ・ 職場の中でもわからないこともあるので勉強になる

(谷栖委員)

- ・ なかなか地域の方と接する機会も少なく、地域の声を聞くこともないので、有意義なものになった

(田中委員)

- ・ 施設には5種類のデイサービスがあるので、何かあれば清鈴園に相談しようと言っていただけのようなデイサービスを目指していく

(堀越委員)

- ・ 至らないところもたくさんあって、今回も意見をいただきありがとうございました
- ・ いただいたお褒めの言葉を職員に還元することが職員の働き甲斐になると思う。職員に伝えてもっとよいサービスにつなげていければと思う

(委員長)

- ・ 外部の方、内部からケアセンターの活動について、熱心に聞いたり発言いただけることは、すごく贅沢な時間だと思う
- ・ 主に阿品、阿品台地域にとってどういう施設であるかを目指して進めていきたい
- ・ 貴重で贅沢な時間をいただき感謝の言葉しかない

(3)その他意見等

- ・ 特になし

3. その他

- ・ 特になし

【資料等】

- 別紙1－半期活動報告書
- 別紙2－近況報告書
- 2017年度サービス向上委員会(運営推進会議)開催要項(2017年度第2回委員会確認用)

2018年度第1回委員会 2018年9月12日(水)

予定